

漁師をめざす 漁師を育てる

東京の漁業—後継者育成の最前線



広く豊かな東京の海を次の世代に

太平洋のかなたへと広大な水域を有し、
たくさんの海の幸を私たちにもたらしてきた東京の海。

しかし現在、伊豆諸島、小笠原諸島に属する多くの島では、
漁業に携わる人材の不足という深刻な課題に直面しています。

東京都や国では、漁業人材を増やすための制度やしくみを整え、さまざまな施策を打ち出してきましたが、
一方でそうした体制面の整備とは別に、

せっかく漁師をめざして島に渡り修業を始めたのに指導する親方や先輩との関係がうまくいかず、
漁業の道を断念したという声も多く聞かれます。

指導する側も世代間ギャップなどにうまく対処できず、
乗り子への接し方、教え方がわからず悩むケースが多いようです。

そこで本冊子では、後継者の育成で成果を上げてきた親方や、
順調に漁師への道を歩んでいる若手の漁業者にインタビューを実施し、
望ましい指導のあり方、後継者育成の方法を探ってみました。

後継者の育成に携わっている親方、指導者、そしてこれから漁師をめざそうという方に、
本冊子がお役に立てれば幸いです。

Contents

広く豊かな東京の海を次の世代に託すために ————— 2

■インタビュー編 ~~~~~

File 1 神津島

秀蒼丸船長 中村俊秀さん 親方として「一生面倒を見る」という覚悟でやっています ——— 4

秀蒼丸乗組員 伊藤師貴さん 船長を慕い修行中 成長のチャンスも与えてくれます ——— 6

File2 三宅島

英丸船長 山田順一さん 今の時代、一人ひとりの性格、個性を見極めた指導が必要です ——— 8

英丸研修生 檜山直之さん 3年という短期で独立を果たすため日々修行に励んでいます ——— 10

File3 小笠原父島

太咲丸船長 中村貴之さん 後進を育てるなら、不安があっても思い切って「任せる」ことです ——— 12

源貴丸船長 山下裕之さん 相手を思いやり尊重する姿勢が大切です ——— 14

東京漁業就業支援センター ————— 16

各種支援制度 ————— 17

コラム／Q&A ————— 18

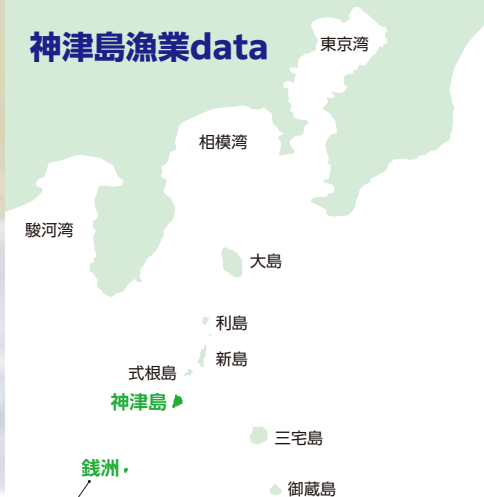
漁業に関する主な法令・制度 ————— 19

File1 神津島

秀蒼丸船長 中村俊秀さん

親方として
「一生面倒を見る」
という覚悟でやっています

神津島漁業data



秀蒼丸の漁場。神津島より南西36kmの海上にある、3カ所の岩礁群からなる島。ダイビングの名所としても知られる。

獲れる魚介



キンメダイ



メダイ



マグロ類



ムツ類

イカ類 テングサ タカバ

主な漁法



◎底魚一本釣り漁法

数十本の針が付いた糸を深海まで垂らし、かかった魚を巻き上げ機で引き上げる。対象魚種=キンメダイなど。

「秀蒼丸のキンメダイ」へ ブランド化を目指す

一本釣り漁法でキンメダイだけに絞った漁をしています。神津島では他の漁もまだまだ盛んですが、私は遊漁船をやり、その後ずっとキンメダイ一筋でやってきました。

主な漁場は神津島の南西にある銭洲^{ぜにす}です。銭洲は水産資源が豊富で、獲れる魚の魚体もいいです。

島しょで獲れる魚をブランド化しようという動きがありますが、私も試行錯誤しながら取り組んでいます。「秀蒼丸のキンメダイ」として、いい魚を出荷していけば、ブランドとして認められ、価値も高まるだろうと考えたからです。

神津島は伊豆七島の中でも漁場の豊富なところで、昔からこの島は漁業が盛んですし、今は港もしっかりと整備されています。島しょ全体で



は以前に比べ漁獲量は落ちてきているといわれますが、まだまだやれるのではないかと考えています。

漁師になりたいという 強い動機があるか見極める

今、うちの船では修行中の乗り子が2人いて、3人体制で操業しています。1人(6~7ページ伊藤師貴さん)は5年前から、もう1人は昨年10月からで、2人とも以前は別の仕事に就いていました。以前、うちで修業して独立し、この神津で自分の船を持ち操業している者も2人います。

募集はハローワークのほか、毎年開催される漁業就業支援フェア(17ページ参照)を活用しています。面談では「漁師になりたい」という動機がどれだけしっかりしているかを見ます。見知らぬ土地できつい仕事に就くわけですから、ぶれずにやっていこうという覚悟がなければ長続きしないからです。

この人なら大丈夫と判断できれば採用します。中には途中でリタイアというケースもありますが、たいていは期待通り長く残ってくれます。漁の仕事そのものは1年もやればだいたい習



得できますので、この土地に溶け込めるかがポイントになります。素直でかわいがられるタイプ、真面目に一生懸命取り組むタイプがいいようです。

成長できるかどうかは 指導する親方次第

もう1点、親方と乗り子との相性も大切です。長い時間、親子のように一緒にいることになりますから。乗り子の2人には「言いたいことがあれば我慢しないで言ってくれ」と伝えています。不満を溜めず言いたいことを言い合って、その場その場で収めるのがいいと思っています。

漁師として成長できるかどうかは、ひとえに指導する側にかかってくるというのが私の考えです。漁師をやりたいという意欲さえあれば、それをしっかりと受け止めて一人前にするのは親方の務めです。「この親方の船に乗りさえすれば何とかできる」と思ってもらえる状況を早くつくることです。



Profile

中村俊秀

Nakamura Toshihide

秀蒼丸船長。遊漁船業のおじの下で21歳から修行し、27歳で独立。遊漁船、漁師歴20年超のベテラン。神津島ではトップクラスの水揚げ量を誇る。家族は妻、母、娘4人(高校1年、中学2年の双子、小学校4年)。48歳。

秀蒼丸の1日

暗いうちに漁場に移動し夜明けとともに漁を開始

一本釣り漁を10回程度繰り返す
1日の水揚げ量は平均して200キログラム弱

夕方に帰港して荷揚げ

*キンメダイに関しては季節は関係なく、1年を通して同じスケジュールで操業

【悩める親方にひとこと】

新人を受け入れる以上は「最後まで面倒を見る」という覚悟が求められます。「ここにいる大丈夫なのか」と不安にさせるようではダメ。知らないところに来るわけですから、何があっても責任をもって守ってやる、というスタンスでないと、安心して修行に打ち込めません。

File1 神津島

秀蒼丸乗組員 伊藤師貴さん

船長を慕い修行中
成長のチャンスも与えてくれます

神津島snap shot



プログラマーから漁師へ 35歳で転身を思い立つ

秀蒼丸の乗り子になって5年経ちます。それまではトラックのドライバーやプログラマーなどの仕事をしていました。漁業とは無縁の生活でした。当時はどちらかというと遊ぶ方が優先で(笑)、あまり身を入れて仕事をしていたわけではありません。

35歳になった時、これからの人生を考えてそろそろしっかりとした仕事に就こうと思い立ち、その時に頭に浮かんだのが漁師の仕事でした。

子どもの頃から海に行くのが好きで、漁の仕事にも興味がありました。ただ、漁師には世襲でしかなれないという思い込みがあり、部外者の自分には無理だと諦めていたんです。その頃はまだインターネットで情報を得るという習慣もなく、自分から行動を起こすということもありませんでした。



フェアで秀蒼丸を知る 体験乗船にチャレンジ

世襲でなくても漁師になれることは「漁師.JP」(一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターが運営するウェブサイト)を通じて知りました。こちらで漁業就業支援フェアの告知を見つけ、どんな仕事なのか知りたくて出向いてみました。

会場には秀蒼丸のブースがあり、そこで乗り子の方(のちに私の兄弟子になる方です)と話をし、漁師をやってみてもいいかなという気持ちになったのです。ただ、その時はまだ踏み切りがつかせませんでした。

翌年もフェアを訪れたところ、秀蒼丸も昨年に引き続き出展していました。その年に来られていたのはおかみさん(中村船長の奥様)で、いろいろと話を伺ううちに、現地で体験乗船することになりました。

4日間ほど神津島に滞在しましたが、そこで初めて中村船長にお会いし、その人柄に触れることができました。体験乗船を終えたところで、この方にお世話になろうと決めたのです。

船長にずっとついていき 独立を果たしたい

中村船長は「俺の背中を見ている」というタイプですね。根は

とてもやさしく、漁についても順序だててわかりやすく教えてくれます。厳しく叱られることもあります。私の身に危険が及びそうなときなどで、理不尽に叱ったりするわけではありません。

今は神津島での独立を目指していますが、船長にずっとついていこうと思っています。豊洲での研修など、成長するためのチャンスも与えてくれますので。

この島はとても暮らしやすいです。夜、商店が閉まる時間が早く、ファストフード店もありますが、慣れれば特に不便に感じることはありません。たまに東京に出向いても、2、3日経つと島に帰りたくなりますね。

島の祭りなどには参加していますが、何かを無理強いされることはないです。この島の人たちは若い人も含め皆さん穏やかで、よそ者いじめなどはもちろんありません。

何よりも漁業をやるなら神津島は本当に恵まれています。漁場が豊かなので、下田など遠方からわざわざ漁をしに来る船もあるほどです。

気持ちとしてはできればあと1年くらいで独立したいです。もちろんハードルは高く、元手も必要ですから簡単にはいきませんが、船長に相談しながら実現に向けて頑張っていきたいと思っています。



Profile

伊藤師貴
Ito Kazuki

秀蒼丸乗組員。埼玉県川口市出身。5年前に神津島に移住し、中村俊秀親方の下で修業中。独身。41歳。



【親方の視点】ブランド化のスペシャリストを目指してほしい



うちで獲った魚の処理については、師貴が一手に引き受けてやってくれています。今後はその分野のスペシャリストとしてさらに成長してもらいたいと考えています。

そこで、初めての試みなのですが、今回彼を豊洲に研修に行かせることにしました。卸売市場に魚を流通させる卸に1日、そして市場の外への流通を担う仲卸に2日という日程で、

魚がどのように管理されて流通し、市場でどんな価値をもつようになるのか、じっくりと学ぶ機会になるはずですよ。

これからの漁師は魚を獲ってくるだけではダメだと思います。自らブランド化を進めていけるようになれば、研修を通じてモチベーションを上げ、次の時代を担う漁師を目指してほしいです。

今の時代、
一人ひとりの性格、個性を
見極めた指導が必要です

三宅島 漁業data



島周りの近場で漁をすることが多いが、北は大島周辺、南は伊豆諸島近辺まで出向くこともある。

獲れる魚介



キンメダイ



カツオ

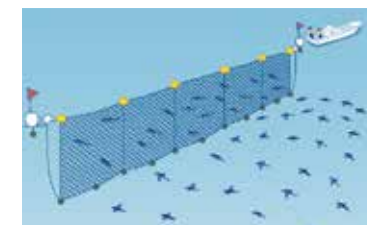
マグロ類、イセエビ、ムロアジ、メダイ

主な漁法



◎曳縄漁法

船を走らせながらバケ(疑似餌)を曳ぎ、エサと間違えて喰いついた魚を獲る。トローリングとも呼ばれる。対象魚種=カツオ、キハダマグロなど。



◎刺網漁法

対象の魚の通り道や活動する場所に刺網を仕掛け、網目にからめるようにして獲る。対象魚種=イセエビ、トビウオ、タカバなど。

◎底魚一本釣り漁法

*4ページ参照

噴火を境に、「潜り」から 魚類中心の漁師に転身

私はもともと「潜り」専門の漁師でした。高校卒業後、漁をしていた父親について修業し、平成12年(2000年)の雄山噴火まではテングサなどの海藻類や貝類を主に獲っていました。

ところが雄山の噴火による火砕流で島民全員が避難を強いられ、4年半後に帰島した頃には環境の変化でテングサなどは獲れなくなっていました。やむを得ず先輩の漁師に教を請い、魚類中心の漁へと転じたのです。

同じ漁とはいえ勝手が違うので最初は戸惑うことが多かったですが、いろいろな漁法の習得に努め、今は一本釣り漁法でキンメダイ、曳縄漁法によりカツオ、キハダ、クロマグロなどの上物、そして刺縄漁法でイセエビなどを獲っています。

ただ、ここ最近では温暖化の影響で、漁獲量は頭打ちになっています。量で稼ぐより魚自体の価値を上げる方向に、島を挙げて取り組むべき時期に来ていると感じています。



3年で独立できる研修制度で 後継者育成

噴火による全島民避難の影響は今も尾を引いていて、漁に携わる人の数も減ったまま、なかなか上昇に転じない状況が続いています。特に若い人が少なくなったことによる後継者不足が深刻化しています。

そこで、三宅島漁業協同組合では独自の研修制度を設けるなどして、後継者の獲得と育成に取り組んでいます。私も島外の漁業希望者を長期研修生として受け入れて指導を始めています。今、私のところに来ている檜山直之君(10ページ参照)で2人目となります。

3年に及ぶ長期研修を終えると、村や国の補助を得てリースで安く船を調達し、独立を果たすことができます。現在までに三宅島ではすでに4人が独立を果たしています。

入門から独立まで通常では8~10年かかりますので、3年というのは異例の速さです。本音を言えば5年は修行してほしいところですが、後継者を急ピッチで育成する必要があることから、このサイクルが定着するよう私たちも力を注いでいます。



「先輩の技を見て覚える」は もう通用しない

研修生として来島する若い人たちに教えるのはかなり大変です。会社勤めをしていたり、学生だったり、漁業とは縁のないところで過ごしてきた方ばかりですから、教えるこちらが戸惑うことが多くあります。

教え方については、かつて自分たちが経験してきたような「師匠や先輩の技を見て覚える」というスタイルは、現在では通用なくなっていると感じています。今の若い人たちには手取り足取り、丁寧なやり方で接したほうがいいようです。

研修生を2人指導する以前にも、2人の漁師志望者を受け入れたことがありますが、2人とも途中でリタイアする結果となりました。

今まで4人ほど教えてきた経験から言えるのは、それぞれ性格が違うので、同じ指導方法で対するのは無理があるということです。一人ひとりの個性や性質を見極めて指導することが何より大切でしょう。



Profile

山田 順一
Yamada Junichi

英丸船長。三宅島出身。漁師歴は36年。当初は潜り漁に携わっていたが、雄山噴火を境にキンメダイやカツオを獲る漁師に転身。現在は漁協の副組合長も務めている。家族は妻と22歳長女、20歳長男。54歳。



英丸の1日 *魚種／漁法により異なる。以下はキンメダイ漁の場合

暗いうちに漁場へ移動。夜明け頃から漁を開始

→ 何度か一本釣り漁を繰り返す。午後2~3時頃には終了

→ 片づけをし、午後5時までに帰港



年間の出漁スケジュール

*その時々天候や海の状況に応じて出漁している。以下は一例

- 冬場=天候を考慮し島周りで、キンメダイ、キハダマグロ、イセエビなど
- 春先=島から少し離れた漁場でカツオ漁など
- 夏場=観光客相手のイルカウォッチングを中心に、キンメダイ漁なども

【悩める親方にひとこと】

若い人たちには態度やジェスチャーで示すより、何事も言葉にして言ってあげないとなかなか伝わらないようです。私自身は口下手で、決してうまく説明できる方ではないのですが、できるだけわかりやすく伝えるよう努めています。

3年という短期で
独立を果たすため
日々修行に励んでいます

三宅島snap shot



仕事のやりがい求めて 漁師を志す

前職はプロパンガスを扱う会社の社員で、それなりに安定していました。少しずつ昇進し、営業所の責任者も任されるまでになりましたが、ある時点で会社人生も先が見えてしまい、やりがいもあまり感じなくなっていました。

自分が本当にやりたいことは何だろう、と考えることが多くなりましたが、もともと銚子出身で海に囲まれて育ち、釣りが好き、魚も好きということから、漁師になりたいと思うようになりました。そこで、漁業就業支援フェアに足を運んでみることにしました。

自分としては、漁師になるなら大きな船に乗り子として加わるよりも、一人で操業するスタイルが合っていると思いましたので、フェアではそれが実現できそうな三宅島のブースに真っ先に伺いました。そこでじっくりと話を聞いて、即決で短期研修に申し込み、1週間の日程で三宅島での研修に参加しました。



三宅島での独立を目指し 38歳で長期研修生に

短期研修では、キンメダイ一本釣りや曳縄漁を体験することができました。初めてのことで船酔いがひどかったのですが、たくさんのキンメダイが水揚げされるのを見て、すっかり漁の魅力に取り憑かれてしまいました。

研修後、少し間を置きましたが、すでに38歳になっており今の制度の下では年齢的にギリギリということもあって、三宅島で独立を目指そうと腹を決めました。3年で独立が叶うという長期研修に申し込み、短期研修に引き続き山田順一親方にご指導いただくこととなりました。

山田親方の下では、キンメダイを始めカツオやマグロ類、そしてイセエビなど、さまざまな漁法で幅広い漁を実践できるので、日々貴重な経験をさせていただいています。

親方の指導は厳しいですが、3年という短期間で一人前になるためには必要ですし、自分で決めて飛び込んだ世界でもあるわけですから、とにかく頑張るしかないという修行に励んでいます。

黒潮の恩恵を受ける三宅島で 漁師としての未来を切り開く

千葉からこちらに移り住んで生活は大きく変わりました。以

前ほど便利に暮らせなくなり、遊びに行くところがあるわけでもなく、食べたいものがあれば自分で料理するようになりました。人によってはそれで不満がたまっていくのかもしれませんが、私は特に苦になりません。ここでの生活が性に合っているようです。

漁業を生業にする立場から、三宅島が素晴らしいと思える点は、魚影が濃く、島の近場でさまざまな魚が獲れることです。黒潮が流れる位置にあるということは、計り知れない恩恵をもたらしてくれるのです。

また、魚種や漁法が限られていると、それがうまくいかなくなった時のダメージは大きいと思いますが、ここでは選択肢が多くあるので安心感があり、その点でもメリットは大きいと思います。

長期研修も間もなく3年目が終了し、独立の時期も迫ってきました。予定通り独立できるようさらに頑張り、ここ三宅島で漁師としての未来を切り拓いていきたいと思っています。



Profile

檜山直之
Hiyama Naoyuki
三宅島長期研修生(英丸)。千葉県銚子市出身。ガス関連会社に16年勤務したのち、38歳で三宅島の研修生に。独身、41歳。

成果が出はじめた三宅島の研修制度



噴火で境に漁業者の減少が続いている三宅島では、漁協が中心となり平成24年(2012年)に漁業就業者の育成を目指す独自の研修制度をスタートさせました。

研修は短期研修と長期研修からなり、3年間の長期研修を終えると独立し船もリースで持てるという魅力的な内容ですが、当初はなかなか長期研修への参加者が現れず、苦労されたとい

うことです。

その後は都の三宅支庁と協力して漁業就業支援フェアに出席するようになり、長期研修への参加者を確保できるようになっていきました。私もこのフェアを通じて参加しています。

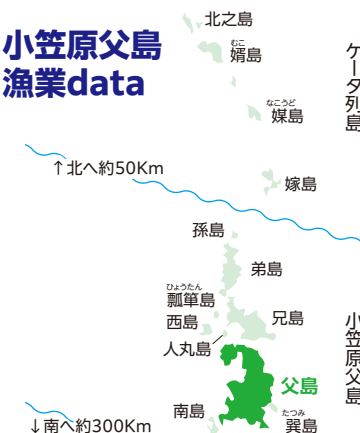
研修を経て独立した人は現在までに4人。研修中の私ともう1人を加えるとまもなく6人になります。指導する親方の確保が課題ですが、後継者を増やすサイクルがいい形で回り始めたようです。

File3 小笠原父島

太夫丸船長 中村貴之さん

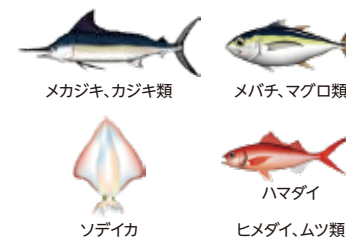
後進を育てるなら、
不安があっても
思い切って
「任せる」ことです

小笠原父島 漁業data

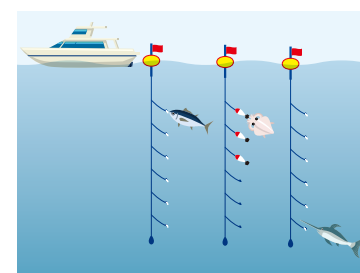


小笠原父島の漁場は広く、北は聳島列島(ケータ列島)から南は硫黄島3島まで及ぶ。

獲れる魚介



主な漁法



◎縦縄漁法
上部に浮き、下部に針(ソデイカ漁では疑似餌)を付けた縦に長い縄を一定間隔で垂らし、魚がかかったものから順次回収していく。対象魚種=メカジキ、ソデイカなど。

「小笠原産」を もっとアピールしていきたい

小笠原父島で漁師になって22年です。修業時代はハマダイ、アカハタや、カメ、エビ、カニなども獲っていましたが、今はメカジキ、メバチ、ソデイカに絞った漁をしています。漁法もいろいろと経験しましたが、現在は縦縄漁法が中心です。



1日の水揚げ量は平均して150~200Kg。年間では30トンほどになります。出漁すると2~5日は海上で過ごすことになり、体力的にも楽ではありませんが、頑張れば頑張っただけ見返りもあります。この船(太咲丸)は最近新調したばかりで、魚の鮮度を保つ最新の機器類も搭載していますが、稼ぐことでこうした設備投資も可能になります。

最近、私が特に注力しているのは「小笠原産」としてのアピール強化です。島しょの魚のブランド化には大賛成で、私たちもいろいろな取り組みを始めたところです。一つは、産地を示すステッカー。他島ではすでにやっていると思いますが、小笠原産ということをアピールしていきたい。もう一つは魚の鮮度。鮮度を

できるだけ保持できるよう、製氷の際の水の質を高めたり、神経締め、血抜きなどの処理にもチャレンジしています。

言いたいことを すべてぶつけてはいけない

独立してから現在までに採用した乗子^{たいしょうまる}は2人です。うち1人は残念ながら2週間ほどで辞めましたが、もう1人は修行を続けて8年目を迎え、今年、小笠原漁協の組合員になるまで成長しました。

私自身は22歳でこの道に入り、親方(第八大勝丸の石井勝彦親方)や兄弟子に教わりながら修業を重ねました。石井親方の指導は厳しかったですが、後に引きずらないところがよかったです。ただ怒るのではなく、その後に何が悪かったのか話してくれるなど、成長につながるフォローをしてくださいました。

自分が指導する側になって心がけていることは、言いたいことをすべて相手にぶつけて追い込むようなことはしない、ということです。出漁中は狭い船内で顔を突き合わせて過ごすので、あまり追い詰めると逃げ場がなくなってしまう。一番忍耐を強いられるのはやはり若い乗子なので、教える側にも我慢が必要だと思います。



これからは待遇面の改善も 進めていく必要がある

船が大型になり、現在の乗子もそろそろ独立を考える時期になったので、乗子をもう1人、2人増やしたいと考えています。ただ、募集をかけてもなかなか応募者が現われず、採用は難しくなっています。

採用にあたっては、漁業就業支援フェアを活用したり、小笠原チャンネル(小笠原諸島の情報発信サイト)に情報を掲載したり、SNSで募集したりと試行錯誤を続けていますが、なかなか成果が上がりません。やはり自ら動かなければと感じ、現在はホームページの開設を準備しています。

仮に採用できたとしても、定着率を上げるには待遇面の改善も欠かせないでしょう。休日をきちんと設け、給与も他業種に引けを取らないようにしていく必要があります。

小笠原は自然に恵まれ、1年を通して温暖で、漁を生業にするにはもってこいの場所です。この島の魅力を若い世代にもっと伝えていければと思っています。



Profile

中村貴之
Nakamura Takayuki
太咲丸船長。東京都青梅市出身。20歳の頃、シマアジなどを養殖するアルバイトとして来島。その後、漁師を目指し第八大勝丸の乗組員に。10年修業ののち独立。家族は妻と子ども4人(14歳長男、12歳長女、9歳次女、4歳次男)。44歳。

太咲丸の1日

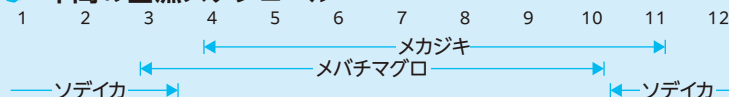
暗いうちに漁場へ移動。夜明け頃から投縄を開始し2時間で終了

昼頃から魚が食いついた縄から引き揚げ。日没後に終了

片づけをし、船内で夕飯を食べ就寝

翌朝も同様に投縄～揚縄。これを2~5日程度繰り返す

年間の出漁スケジュール



【悩める親方にひとこと】

私自身、アドバイスできるほどの指導経験はないのですが、一つ大切だと思うのは「任せる」ということです。教える側としてはつい口を出したり、やってあげたりしてしまいがちですが、大きく成長してもらうには口を挟まず、思い切ってすべて任せてみる必要があるではないでしょうか。

File3 小笠原父島

源貴丸船長 山下裕之さん

相手を思いやり
尊重する姿勢が
大切です



小笠原父島
snap shot



屋形船でのアルバイトが 漁師を目指すきっかけに

漁師になろうと思ったきっかけは、高校時代に経験した屋形船のアルバイトです。船に関わる仕事が自分に向いているなと感じたのです。その会社に就職の相談してみたところ、小笠原で漁の仕事をしてみたらどうかと勧められました。そこで小笠原村役場に連絡を取り、何度かやり取りをした結果、高校卒業後に小笠原父島で漁師を目指すことになりました。

島では磯部康郎親方に師事することになりました。親方の指導は厳しく、歯を食いしばって修行に励み、一本釣り漁法やたて縄漁法を学びました。こちらに来て4〜5カ月ほどは船酔いにも悩まれ、この先大丈夫だろうかと不安になることもありましたが、石の上にも3年と腹をくくって頑張りました。

2年ほど経ったところで、親方から「マンツーマンで教えるのにも限界がある。兄弟子がいるところでもっと経験を積んだ方がいいだろう」と告げられ、先輩の乗り子が2人いる菊池勝貴親方の下に移りました。



Profile

山下裕之
Yamashita Hiroyuki
源貴丸船長。東京都港区出身。実家は新橋の自転車販売店。18歳の時、漁師を目指し小笠原に。32歳で独立。家族は、妻と小5、小3の娘二人。38歳。

国の制度を活用し 独立のための資金を調達

菊池親方も厳しかったですが、当時、漁協の組合長を務めていて忙しく、先輩たちが舵持ちとなって自分たちだけで出漁することが多かったのです。

菊池親方のところには12年ほどいました。いつしか自分が舵持ちとなって後輩たちを教える立場になりましたが、親方の了承を取りつけ独立できたのは32歳の時でした。

独立に当たっては、船を購入する資金をどう調達するかがハードルになりますが、自分の場合は「離島漁業新規就業者特別対策事業」を利用することができました。要件を満たすと、国や都・村等から総額の5分の3を補助してもらえる仕組みです。これで現在の船「源貴丸」を購入することができました。

このほか、組合を通して水産制度金融を利用し、漁業開始資金として低金利で融資を受けられる制度もあります。

若い世代へ自分の経験を 包み隠さず伝えたい

小笠原の魅力は、まずは何といっても海がきれいだという事です。私はこちらに来てからサーフィンを始め、今も休みの日は波乗りに興じています。

若手の育成に欠かせない「作業場」の役割



漁に必要な道具類を作るための作業場は、漁師同士のコミュニケーションの場であるとともに、技術や知識を学ぶ学校のような役割も果たしています。

道具や仕掛けは他の漁師に教えないというのが一般的だと思いますが、ここ小笠原では、オープンにして互いに教え合うという慣習が根付いているのです。

もう一つの魅力は“島時間”。せかせかしたところがなく、自然の中でゆったりとした気持ちで過ごすことができます。

以前は携帯の電波が届かず、メールは内地に戻った際にまとめて確認するしかなかったのですが、現在はWi-Fiが完備されているので不便を感じることはありません。

私が来島した頃の漁船の隻数は26〜27程度でしたが、現在は38隻にまで増えています。漁師の数も増えていますが、ほとんどの漁師が私のような島外出身者です。

現在の船は小型なので、乗り子をすぐに受け入れるつもりはありませんが、今後、若い人を採用するとしたら、自分が経験したいろいろなことを包み隠さず教えて、いずれは独立できるように丁寧に育てていきたいと考えています。

漁の現場では命に係わることに直面するので、ある程度厳しく接する必要がありますが、未熟であっても一人の人間として尊重して指導すべきだと思います。相手を思いやり接するというのが、何より大切ではないでしょうか。



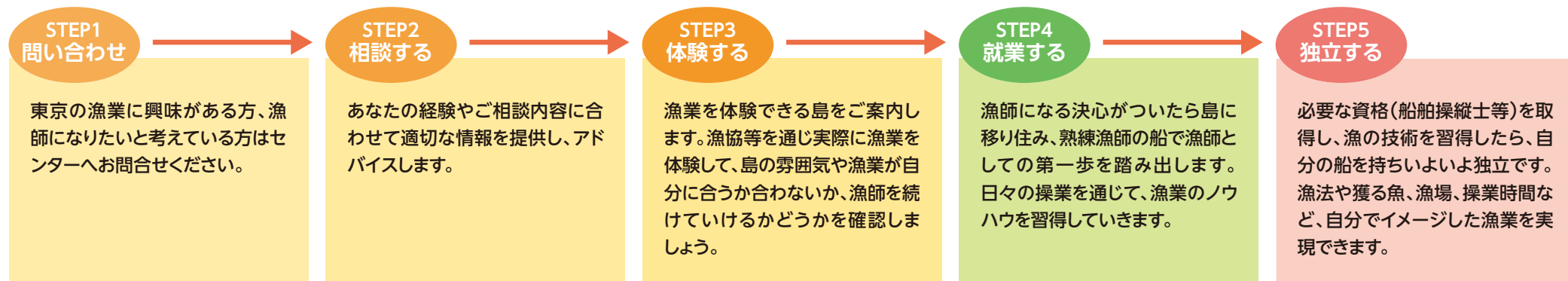
東京漁業就業支援センター

漁業人材育成の総合窓口「東京フィッシャーズナビ」を運営。漁師になりたい方、漁業に携わっている方をサポートしています。
「漁師になるにはどうしたらいいの?」「若い人への接し方、教え方が分からない」などさまざまな疑問、お悩みにお応えします。

漁業への就業 — 各種支援を活用した就業への流れ —



漁師になるためのステップ



東京漁業の動画

・漁師への道 ～東京の海で漁業を目指す方へ(三宅島)

Long_ver.(13分)

<https://www.youtube.com/watch?v=MXI57Ec7yiQ>



・Tokyo_Fisherman ～東京で漁師になる!(小笠原)

Long_ver.(16分)

<https://youtu.be/FxMMe-M4sh0>



漁業就業支援フェア

新人漁師を募集している漁師や漁協等から直接話を聞けるイベント。現場の漁師から、リアルな漁師生活について聞くことができます。毎年7月に開催。主催は、一般社団法人全国漁業就業者確保育成センター

<https://ryoushi.jp/>



各種支援制度

東京都等では、漁業希望者や漁業者が安心して漁業に従事できるように各種支援を実施しています。

漁業就業希望者のための支援

事業名等	支援内容
短期漁業体験	1～2週間程度の短期漁業体験(短期研修)に必要な経費を支援

漁業就業者のための支援

事業名等	支援内容
漁業経営育成研修(長期研修)	担い手育成に必要な経費を支援
家賃補助	民間住宅等を借り受ける場合の家賃を支援
資格取得	漁業操業に必要な資格・免許等の取得経費を支援 対象資格:1級小型船舶操縦士、6級海技士(機関)、第2級海上特殊無線技士、潜水士
青年・女性漁業者活動支援	地域の活性化のための取組等に係る経費を支援

独立に向けた漁業者のための支援

事業名等	支援内容
離島漁業新規就業者特別対策事業	集落又は漁協が独立して3年未満の新規就業者に漁船等を貸し付ける際のリース料を最長3年間にわたり定額支援(浜の活力再生プラン策定地域の漁業集落)
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	中核的漁業者へのリース方式による漁船の導入を支援(広域浜プラン)
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	意欲ある担い手による機器の更新を支援(広域浜プラン)
漁業近代化資金	漁業者等が漁船や漁業用機器等を購入する際に必要な資金について、東日本信用漁業協同組合連合会が低利で貸付
沿岸漁業改善資金	就業者や青年漁業者等が経営改善や近代的な漁業経営に取り組むために必要な資金について、都が無利子で貸付

令和6年3月現在

このページのお問い合わせは、東京漁業就業支援センター
(電話:03-5320-6197/Eメール:S0000486@section.metro.tokyo.jp)までお願いいたします。

西田圭志さん、 『ミスターとうきょう漁業』に就任

三宅島の西丸船主、西田圭志さんが令和6年2月、水産業の活性化と将来の担い手の確保を図ることを目的に広報活動を行うリーダー『ミスターとうきょう漁業』に任命されました。

西田さんは、大学卒業後の2015年に三宅島漁業協同組合の長期漁業研修の第3期生として就業。研修終了後の2018年に漁協に加入して、西丸船主として独立しました。キンメダイ漁などに日々従事しながら、資源の持続性に配慮した漁業の実現を目指されています。

「任命いただき、ありがとうございます。大学では、水産資源学という、いかに魚を持続的に使っていくかを研究する学問を学びました。その学びを生かして、一般消費者の皆さまにも、サステナビリティな消費に興味を持ってもらえたら嬉しいです。ミスターとうきょう漁業として、東京の漁業や水産物の魅力を発信し、多くの方々に知っていただけるように努めていきます」(西田さん)



西田圭志
Nishida Keishi

三宅島漁業協同組合組合員、西丸船主。東京大学農学部卒業。2021年、三宅島漁業後継者育成対策実行委員。2023年、三宅島クロマグロ・ジャンボ・曳縄部会副会長。

東京で漁師をめざす よく聞かれる5つの質問

漁師になるには どうしたらいいですか？

伊豆諸島や小笠原諸島などの島しょで漁師になりたいなら、現地で操業している船の“乗り子”として雇ってもらい、働きながら技術を習得して独立を目指すというのが一般的ですが、まずは募集などの情報を知る必要があります。東京漁業就業支援センター(17ページ)などに問い合わせしてみてください。

修業を始めて どのくらいで独立できますか？

魚種や漁法、操業のスタイルなどにより修業期間は異なりますが、一般的に5年から10年の経験が必要だといわれています。ただ、三宅島のように修行開始から3年程度で独立できる研修制度を設けているところもあります。

休日や就業時間は どうなっていますか？

漁業は自然相手の仕事のため、操業できる時に出漁し、時化などでは休漁となるなど休みは不規則となります。基本にお盆や年末年始は休みで、地域や漁業の種類によって、市場の休みに合わせて休日にしたり、資源管理等で連続した休日となることもあります。

就業時間も自然相手のため9:00～17:00ではなく不規則で、夜間労働や長時間労働となる場合があります。事前の情報収集を行い、自分のライフスタイルのイメージと擦り合わせておくことが重要です。

漁師になるのに 必要な資格はありますか？

独立する際に必要になるのは、漁船を動かすための「1級小型船舶操縦士免許」、漁船の無線機を操作するための「第2級海上特殊無線技士免許」、そして島から離れて漁業をするのに必要な「6級海技士(機関)免許」です。一般的には乗り子として働きながら資格の取得をめざします。

人付き合いが苦手でも 漁業や漁村生活はできますか？

操業自体は一人でできても、操業ルールが定められ漁場管理が行われていることから、漁師仲間同士の交流や助け合いが必要です。漁業を離職する理由として人間関係が挙げられることも多く、最初は人付き合いが苦手でも、少しずつ漁村の漁師仲間と打ち解けていく努力が必要です。



漁業に関する主な法令・制度

漁業には、漁業権、漁業調整規則、資源管理などに関するものなど、さまざまな法令や制度があります。

漁業を営む上で知っておかなければならない主な法令・制度を以下にご紹介します。

1 漁業に関する法制度

漁業法は、水産業を営むうえではおおもとなる法律であり、これによって漁業権や大臣許可漁業や漁業調整委員会指示について規定しています。

また、漁業調整規則は、漁業法と水産資源保護法を根拠にして各都道府県が定めているものであり、知事許可漁業、体長制限などの制限について定めています。

漁業法	国	大臣許可漁業	沖合底びき網漁業、大中型まき網漁業、かつおまぐろ漁業等	17種
		届出漁業	沿岸まぐろはえ縄漁業等	3種
		広域漁業調整委員会指示	沿岸くろまぐろ漁業、きんめだい底刺し網漁業等	3種
	都道府県	漁業権漁業(免許漁業)	(第一種共同漁業)いせえび漁業、あわび漁業、てんぐさ漁業等 (第二種共同漁業)たかべ刺網漁業、たかべ建て切り網漁業等	
		(法定)知事許可漁業	小型機船底びき網漁業、中型まき網漁業等	4種
		海区漁業調整委員会指示	浮きはえ縄漁業、いか釣り等	13種

水産資源保護法 (体長制限、禁止期間等)

東京都漁業調整規則	知事許可漁業	さんご漁業、底魚一本釣り漁業(小笠原)、かめ漁業、底立てはえ縄漁業、建て切り網漁業等	22種
		底魚一本釣り漁業(伊豆諸島)、ひき縄漁業、突棒漁業等	

免許、許可、届出、承認を要しない漁業
(自由漁業)

底魚一本釣り漁業(伊豆諸島)、
ひき縄漁業、突棒漁業等

※1 自由漁業についても、漁業調整規則による禁止漁業、体長制限等の規制を受ける。

※2 法令等による規制以外に、キンメダイ資源管理計画や各種操業協定等、民間の規制を受ける場合がある。

2 漁業権

漁業権は、知事の免許により一定の期間、一定の水面において排他的に特定の漁業を営む権利です。東京都では各島の周囲1000~2000m内の海域に共同漁業権が設定されています。

漁業権が設定されている海域において、漁業権の対象となるイセエビや貝類、藻類は漁業協同組合の組合員以外の者が採捕することができません。

3 漁業調整規則

(1) 許可漁業

漁業調整の観点から漁業を営むにあたり許可を必要とする場合があります。漁業許可を受けるには定数や許可の申請期間が定められているので、あらかじめ所属する漁協にご相談ください。

(2) 採捕に関する規制

水産資源の保護培養を図るため、漁業調整規則により、禁止漁業、体長制限、禁止区域、使用が禁止されている漁具・漁法等が定められています。

4 海区漁業調整委員会指示

漁業者を主体とした行政委員会である漁業調整委員会は、「漁業調整のため必要があると認めるとき」は関係者に対し、水産動植物の採捕に関する制限・禁止や漁業の承認制等、必要な指示をすることができます。操業にあたっては指示の内容を遵守するとともに漁業によっては操業にあたり承認が必要な場合があります。

5 TAC管理

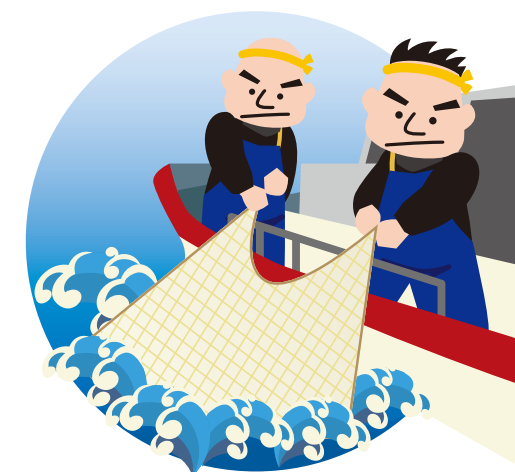
TAC制度は、魚種別に1年間の漁獲量を漁獲可能量(TAC)としてあらかじめ定め、漁業の管理主体である国及び都道府県ごとに割り当て、それぞれの管理主体が、漁業者の報告を基に割当量の範囲内に漁獲量を収めるよう漁業を管理する制度です。

東京都ではクロマグロを対象として、各支庁管内に漁獲枠が配分され、漁獲量は漁協を通じてモニタリングされています。また、漁獲の割合に応じて、目的操業の自粛(80%)、採捕自粛要請(90%)、採捕停止命令(95%)等の措置がとられます。

6 自主的資源管理

資源管理においては、法制度に基づく規制に加えて、休漁、体長制限、操業期間・区域の制限等の漁業者自身による自主的な取組が行われています。このような自主的な取組は、資源や漁業の実態に即した実施可能な管理手法となりやすく、また、資源を利用する当事者同士の合意に基づいていることから、ルールが遵守されやすいという長所があります。東京都ではキンメダイ、タカベをはじめとする多くの魚種で自主的な取組がなされています。

※キンメダイの資源管理:キンメダイは伊豆諸島の漁獲金額の約6割を占める重要な魚種ですが、漁獲される魚体の小型化や漁場の遠隔化など、資源の悪化が懸念されています。東京都の漁業者は、資源の持続的な利用のため、資源を共有する他県漁業者とともに小型魚の保護や針数制限、休漁など自主的な資源管理に取組んでいますが、今後、一層の資源管理の強化が求められています。





令和6年4月発行
東京都産業労働局 農林水産部水産課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2丁目8番1号
TEL 03-5320-6197